

2022年4月22日

各位

株式会社北洋銀行

2022年度「ほっくー基金」助成先が決定しました ～生物多様性保全に取り組む22団体へ総額600万円を助成します～

北海道の豊かな自然と環境を守り次世代へ引き継いでいくことは、地域に根差した金融機関の社会的責任であると認識し、当行はビジネスを通じたお客さまの取組み支援だけでなく、環境保全への取組みを積極的に行っています。2021年6月、TCFD^{*1}(気候関連財務情報開示タスクフォース)の生物多様性版として「TNFD^{*2}(自然関連財務情報開示タスクフォース)」が正式に立ち上がり、4月末には国連生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)が中国で開かれるなど、本年は生物多様性保全に関する国際議論の加速が見込まれています。そうした中、地域金融機関の果たすべき役割の一つとして、生物多様性保全への取組みが、より一層求められているものと捉えています。

当行では、北海道の生物多様性保全に取り組む人々や団体を応援する「ほっくー基金」を2010年に設立し、道内の希少種保護や生息環境の整備等に取り組む様々な団体を幅広く、継続的に支援してきました。2022年度は「ほっくーコース(助成金額上限100万円)」に10件、「トムコース(助成金額固定10万円)」に20件の応募があり、「ほっくー基金選定協議会」による厳正な協議の結果、下記22団体へ総額600万円の活動資金を助成することに決定しました。これにより、ほっくー基金による寄付は7,990万円(延べ145先)となりました。各団体における活動の詳細につきましては、添付の別紙をご参照ください。

当行は今後も、社会課題の解決に取り組むことを通じ、全てのステークホルダーと地域社会・環境の持続的発展に貢献してまいります。

※1 Task Force on Climate-related Financial Disclosures の略。2015年12月に金融安定理事会(FSB)により設立された、気候変動リスク・機会の情報開示を推奨する国際的な支援組織。

※2 Taskforce on Nature-related Financial Disclosures の略。国連環境計画金融イニシアティブ、国連開発計画、Global Canopy、及び世界自然保護基金により発足した、自然関連の財務情報を開示する枠組みの開発・提供を目指す国際イニシアティブ。

記

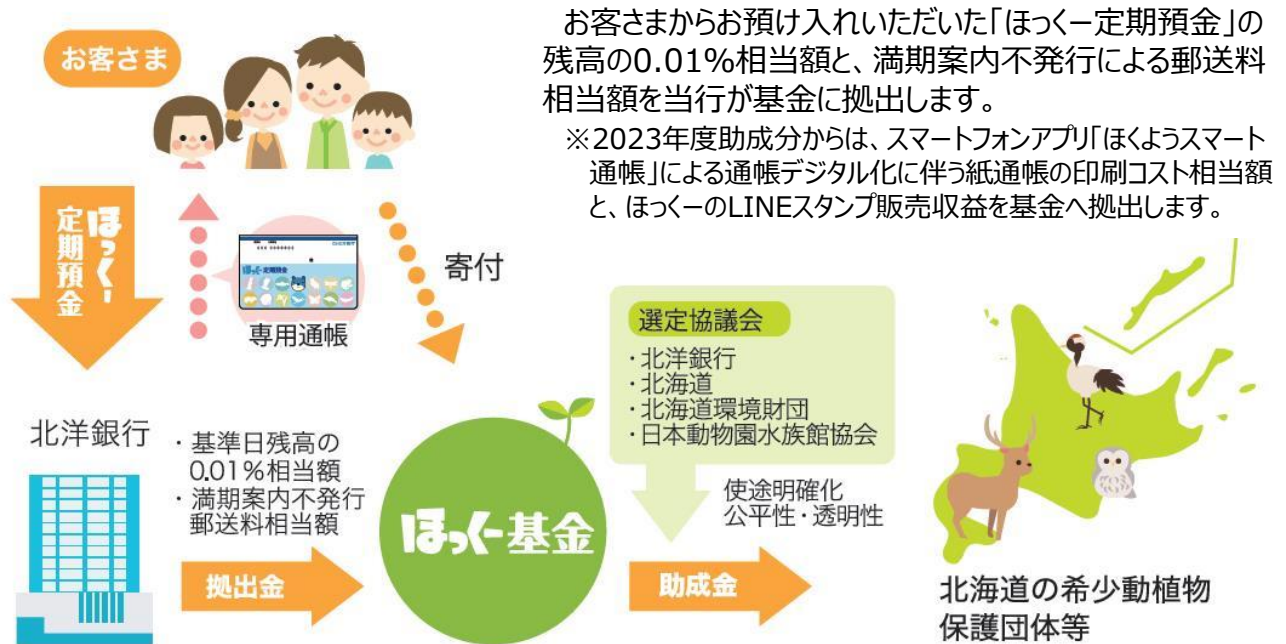
ほっくーコース助成先団体 (6 団体) ※申込順			
オホーツク魚類研究会	特定非営利活動法人 ふらっと南幌	環境市民団体 エコ・ネットワーク	釧路自然保護協会
特定非営利活動法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	一般社団法人学校地域協働 センターラポールくしろ		
トムコース助成先団体 (16 団体) ※申込順			
駒生川に魚道をつくる会	こどもEcoくらぶ (一般社団法人はっぴー福祉会)	池田町林業グループ	アライグマ捕獲深川市民の会
NPO 定山溪自然倶楽部	黒松内ふなの森自然学校 運営協議会	利尻島ウミネココロニー について考える会	北大ヒグマ研究グループ
旭山自然調査隊	任意団体うみいく	中標津の自然を知ろう会	特定非営利活動法人 てしかがトレイルクラブ
東川町大雪山国立公園 保護協会	大雪山マルハナバチ市民 ネットワーク	フォレストクリエイティブ (TACK)	宮舞町湿原を大切に 思う会

以上



北洋銀行グループは、2018年12月「北洋SDGs宣言」を表明し、地域の持続的成長支援と社会的課題の解決に取り組んでおります。なお、SDGsに関連するプレスリリースには、該当するSDGsのアイコンを明示しております。
【SDGs】2015年の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための2030年までの国際目標。17のゴールと169のターゲットで構成される。

ほくー基金【2022年度 寄付先のご紹介】



2022年度寄付先について

2022年度は総額600万円を寄付します。寄付先の選定に際しては「ほくー基金選定協議会」での協議に基づき、「ほくーコース」6先と「トムコース」16先の計22先に決定しました。※（ ）内は、主な活動地域

ほくーコース

- ①オホーツク魚類研究会（美幌町）
- ②(特非)ふらっと南幌（南幌町）
- ③環境市民団体エコ・ネットワーク（札幌市）
- ④釧路自然保護協会（釧路市）
- ⑤(特非)サロベツ・エコ・ネットワーク（豊富町）
- ⑥(一社)学校地域協働センターラポールくしろ（釧路管内）

トムコース

- ①駒生川に魚道をつくる会（美幌町）
- ②こどもEcoくらぶ（当別町）
- ③池田町林業グループ（池田町）
- ④アライグマ捕獲深川市民の会（深川市）
- ⑤NPO定山溪自然倶楽部（札幌市）
- ⑥黒松内ぶなの森自然学校運営協議会(寿都町)
- ⑦利尻島ウミネココロニーについて考える会(利尻島)
- ⑧北大ヒグマ研究グループ（幌延町）
- ⑨旭山自然調査隊（札幌市）
- ⑩任意団体うみいく（石狩市）
- ⑪中標津の自然を知ろう会（中標津町）
- ⑫(特非)てしかがトレイルクラブ（弟子屈町）
- ⑬東川町大雪山国立公園保護協会（旭川市）
- ⑭大雪山マルハナバチ市民ネットワーク(旭川市)
- ⑮フォレストクリエイティブTACK（当麻町）
- ⑯宮舞町湿原を大切に思う会（別海町）

ほっくーコース①オホーツク魚類研究会

1. **活動名称** 生物多様性に配慮した農業用施設用手作り魚道

2. **主な活動地域** 美幌町

3. 活動内容

溜池や水田などの農業用施設は、湿地に代わる生物の生息地として、様々な恩恵をもたらしてきた。しかし、構造に問題があるため、せつかくの生息地がすべての生き物に利用できていない場合がある。

美幌町には、道内屈指の大きさを誇る溜池があり、様々な生物の生息場所となってきた。しかし、溜池内にある小さな段差が、魚の移動を妨げる欠点があった。本活動では、溜池内に魚道を設置し、魚が自由に移動できるようにする。昨年までの活動により、5月から9月までの水が溜まっている期間に対応した魚道の完成が見えてきた。本年度は水が溜まっている期間5ヵ月を通して魚道を運用する。また、9月以降の水が抜けた時期でも使える魚道の開発を目指す。



4. **採択金額** 800千円

5. 選定協議会での採択理由・意見など

- 昨年に引き続き温水溜池での魚道調査であるが、水が抜かれた9月以降も使える魚道づくりを行うことや越冬場所を創出する点が新しい点である。
- 生活や産業に密接した生物多様性保全は重要である。

ほっくーコース②特定非営利活動法人 ふらっと南幌

1. **活動名称** 石狩川下流域で消失したミズゴケ湿原再生のためのミズゴケ栽培・移植

2. **主な活動地域** 南幌町

3. 活動内容

かつての幌向原野中央に位置する南幌町では、開拓の過程で石狩低平地固有の湿原環境が失われました。2011年に故辻井達一先生が夕張川の泥炭採取地を訪れ、当地に湿原環境再生の可能性が残っていること、「幌向」を冠する7種の植物があることを示唆したのを契機に、当法人では湿原観察・学習会等の開催を通して当地での湿原再生を目指す活動を重ねて参りました。

2013年から河川管理者、専門家との協働で、湿原植生群落再生と活用に向けた「ほろむい七草プロジェクト」を立ち上げ、江別太で見つかったミズゴケ保護と栽培増殖に取り組むことで、2021年にミズゴケ増殖と湿原再生地への移植に関する技術の確立に至りました。



4. **採択金額** 700千円

5. 選定協議会での採択理由・意見など

- 非常に少なくなったミズゴケ群落を再生するために、泥炭採掘跡地にミズゴケを移植し、再生を図る活動。
- 多くの関係者が関わっており、大量の増殖を必要とする点で、大きな動きと言える。
- さらにイベントで関心層を取り込もうとしており、波及効果も高い。

ほっくーコース③環境市民団体エコ・ネットワーク

1. **活動名称** ヒグマの市街地侵入防止対策及び市民の意識調査

2. **主な活動地域** 札幌市（南区・中央区・西区）

3. 活動内容

ヒグマが南区に多く分布する放棄果樹園を介して市街地に侵入することが明らかになっている。私たちは、ほっくー基金の助成を得て令和2年度、3年度の2回に亘って侵入が確認されていた放棄果樹園のサクランボの伐採と枝条の整理を市民ボランティアの力を借りて実施した。令和2年度は3か所で6回、130本を、令和3年度は6か所で120本を伐採できた。これで主要な放棄果樹の伐採は8割方完了したことになる。



本年度は残ったサクランボの伐採と平行してもう一つのヒグマ誘引要因とされる家庭菜園の所有者にクマ対策と意識についての調査を実施し、全市的なクマの侵入実態を明らかにするとともに侵入対策を提示したい。

4. **採択金額** 800千円

5. 選定協議会での採択理由・意見など

- 昨年問題になったヒグマの出没を防止する活動。
- 所有者との面会を重要視し、コミュニケーションを取って、果樹の伐採まで行う丁寧な手法である。
- 複数年となるが、アンケート集計や聞き取り調査を実施し、結果を共有する点が新しい取り組みである。
- 4年連続の申請となるが、2019年度は別内容（平取町スズラン群生地における除草活動）である。

ほっくーコース④釧路自然保護協会

1. **活動名称** 釧路川支川におけるイトウ個体群復元の取組

2. **主な活動地域** 釧路市

3. 活動内容

釧路湿原や釧路川流域で50年、100年先も絶滅危惧種イトウが将来にわたって存続し続けていくため、本事業では、釧路湿原自然再生事業（魚道整備など）による河川環境再生や産卵床等の調査を行う。また現在、繁殖が途絶えている支流については、あわせて飼育施設における生息域外保全や絶滅支流への再導入の取組を進める。



4. **採択金額** 800千円

5. 選定協議会での採択理由・意見など

- 過去魚道づくりを支援してきたが、今期は産卵床調査などのモニタリング調査や釧路市立博物館等と連携し、発眼卵から稚魚への飼育育成活動に移る。
- これまでの活動から魚道を通じて生息魚が上流と下流を行き来しているのが確認されており、効果が実証されている。
- 保護増殖の段階まで来ており、生物多様性の復活の観点から支援する価値は高い。



ほっくーコース⑤特定非営利活動法人 サロベツ・エコ・ネットワーク

1. **活動名称** サロベツ湿原ペンケ沼等におけるガンカモ類調査と保全

2. **主な活動地域** 豊富町

3. **活動内容**

ペンケ沼及び泥炭採掘跡地で目視とドローンを利用したガンカモ調査を行い、ペンケ沼でゴミ調査・水草調査・水質調査を行うことによりガンカモ類の生息状況と沼の現状を把握し、報告会を開催することによりガンカモ中継地としてのペンケ沼の重要性と問題点を普及啓発します。

4. **採択金額** 900千円

5. **選定協議会での採択理由・意見など**

- サロベツ湿原におけるガンカモ調査を水質・水面・ごみ流入の面から調査をし、有識者を招いた講演会でその成果を報告するもの。
- 当地はラムサール条約湿地に指定されているほか、フライウェイパートナーシップにも登録された湿地であり、渡り鳥にとってたいへん重要な地域である。
- そのような地域で多様な調査を行い、その知見を講演会の場で議論することは意義がある。



ほっくーコース⑥一般社団法人学校地域協働センターラポールくしろ

1. **活動名称** 「野鳥の森の音探し」親子探究ツアー「シマフクロウはナいている？」

2. **主な活動地域** 釧路管内

3. **活動内容**

新型コロナの感染拡大を経験した今、改めて人と動物の健康を一つと捉え、人、動物、環境の関係者が分野横断的に連携して、その解決に向けて取り組む「ワンヘルス・アプローチ」を地域に暮らす子どもたちに様々な体験を通して学ばせる活動。

- ① 絶滅のおそれのある希少野生動物の保護の現状とその対策について知る
- ② 野鳥が暮らす森の中で奏でる音を探し、豊かな感受性を育み環境保護活動への関心を高める。

猛禽類医学研究所がある釧路地域の子どもたちに、釧路管内における環境治療をきっかけに「生物の生きる意味」を考えさせること、またこれからの社会との繋がりにおいて様々な発信の仕方があることを、体験を通して説いていく。

4. **採択金額** 400千円

5. **選定協議会での採択理由・意見など**

- 当団体は、キャリア教育や教育ICTの普及などを主なテーマとして活動する団体であるが、専門家の案内の元、野生動物の保護に関する学習会を行うという点は助成制度の趣旨に合致する。
- 「猛禽類医学研究所」や音探しを指導する「ホラネロ」は地元でも実績のある団体・グループである。

トムコース① 駒生川に魚道をつくる会

1. **活動名称** オジロワシに対するプラスチックごみの影響調査
2. **主な活動地域** 美幌町
3. **活動内容**

2012年、私たちの活動によって駒生川に魚が戻ってきました。その後の調査で、流域にはヒグマやタヌキなど、様々な動物が生息することがわかりました。そして近年、流域の森でオジロワシが営巣し、昨年をはじめ繁殖に成功しました。オジロワシは主に魚を食べる大型の猛禽類で、生態系の中では、川に遡上した魚を森へと運ぶ役割を担います。しかし、巣内にビニール袋を持ち込むなど、懸念すべき状況が見られたため、営巣状況について調査を行います。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 昨今のプラスチック問題に関する内容で、一般市民からも関心が高い。
- 地域の食物連鎖を通じて、猛禽類にどの程度影響があるか明らかにする活動で価値が高い。

トムコース② こどもEcoくらぶ（一般社団法人はっぴー福祉会）

1. **活動名称** こどもと考える生物多様性「生きものいっぱい豊かなほっかいどう」
2. **主な活動地域** 当別町
3. **活動内容**

インクルーシブこども公園および併設の建物内に、こどもたちが分かりやすい、北海道の生物多様性を学べるパネルおよびアニマルオブジェを展示します。子どもたちとグリーン（野菜や花）を育て、楽しみながら自然観察の一步を踏み出すきっかけを提供します。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 生物多様性を学ぶパネルやオブジェを設置し、環境教育を進める。
- どんな子どもも楽しめるインクルーシブという視点を持ち、すべての子どもへの普及啓発を図るもの。
- 蜂や蝶などによる送粉・受粉などをテーマにしており、生態系サービスの視点への着目や専門家がボランティアで活動している点も評価。

トムコース③ 池田町林業グループ

1. **活動名称** 多様な生物の生息場となる枯損木保全の提案事業
2. **主な活動地域** 池田町
3. **活動内容**

試験研究機関や大学より講師を招聘して、生物多様性保全の観点から見た枯損木の価値についての講演会を開催する。また、当グループが町と分収育林契約を締結している天然林において、枯損木の分布調査を行い、多様な生物の生息場となる枯損木の条件について検討を行い、枯損木の保全に向けた方策の提言を行う。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 枯損木は、生態系にとって重要な役割を果たしている。その枯損木の価値の確認と調査を行う。
- 通常、林業面から考えると伐採してしまうことが多いが、今回は珍しい視点からの取り組み。
- 手法もワークショップやモニターツアーとさまざまであり、啓発意欲も高い。

トムコース④ アライグマ捕獲深川市民の会

1. **活動名称** 地域住民連携による外来生物アライグマの駆除
2. **主な活動地域** 深川市
3. **活動内容**

アライグマ捕獲を行う地域住民で会を作り、捕獲技術の向上を図る活動や捕獲用具（箱罠）の共同使用等によってアライグマ捕獲を効率的に行うとともに、関係団体とも連携して地域全体の状況を知り、やりがいのある捕獲活動を行って、地域のアライグマ駆除対策の成功に寄与する。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- これまでもアライグマの捕獲・処分やこの問題に関する啓発に取り組み、実績がある団体である。
- 助成金は、更なる備品の充実に充てる模様。

トムコース⑤NPO定山溪自然倶楽部

1. **活動名称** 貴重な自然、植物を守り、次世代へ繋ぐ活動
2. **主な活動地域** 札幌市南区定山溪
3. **活動内容**

大都市の中にある定山溪地区が、国立公園の一部だということを、市民、子どもたちへ伝え、絶滅危惧である植物「シラネアオイ」や「エゾノハナシノブ」等を守り、貴重な自然を次世代へ繋いでいく。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 主に森林整備にかかる機材・燃料代などの申込み。
- そのほか、団体の年間計画のなかで、市民や保育所、定山溪小中学校の生徒、または家族向けの自然体経験活動などを実施し、意識醸成につなげていく。
- 単なる森林管理ではなく、絶滅危惧種の保全や生態系との関わりの環境教育の形で伝えることを重視しており、評価できる。

トムコース⑥黒松内ぶなの森自然学校運営協議会

1. **活動名称** 寿都の海を未来につなぐプロジェクト～いきものさがし・ゴミ拾いを通じて～
2. **主な活動地域** 寿都町
3. **活動内容**

当団体は21年間、地域や海外からの子どもたちが自然の魅力を体験し、自然を誇りに思えるように自然体験活動を寿都の海で行ってきた。より多くの地域住民に、これまで以上にプログラムの本質を伝えるコンテンツづくりや情報発信を行い、地域内のプログラムへの理解や関心を高める活動を行う。そのことによって地域全体での生物多様性における保全活動の機運や協働関係づくりを目指す。子どもの自然体験活動を行うことで寿都の海という環境教育のフィールドに対して地域内外から寄付や活動協力金が集まり、活動が展開されるようになる。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 講師による指導の元、海の生きものを探し、海洋環境を見つめなおす活動。
- 地域住民とのネットワーク強化や生物多様性保全に関するプログラムづくりも行う。

トムコース⑦利尻島ウミネココロニーについて考える会

1. **活動名称** ウミネコの巣立ち見守り隊
2. **主な活動地域** 利尻島
3. **活動内容**

巣立ち間際に海に出ることができず道路上に滞在してしまうウミネコの巣立ち雛を安全な海岸沿いに誘導するため、①下草刈りを行い繁殖地から海岸までのアプローチ道を作る②観光客や地元の方々々に注意喚起するための看板を複数設置③車の誘導（交通整備）を行う。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 利尻島で繁殖するウミネコの巣立ち後のロードキルを防ぐ取り組み。2019年には1500羽が事故死という深刻な状況。
- 2020年に当基金による助成で、看板とアプローチの下草刈りを行ったところ、4割死亡数が減少した。
- 今回は導線の下草を数メートルの幅で刈り取り、交通誘導を行う。

トムコース⑧北大ヒグマ研究グループ

1. **活動名称** 学生による道北地域におけるヒグマの生態調査
2. **主な活動地域** 幌延町
3. **活動内容**

「絶滅のおそれのある地域個体群（LP）」に選定されている天塩・増毛地域のヒグマ個体群を対象とする生態調査を行う。北大天塩研究林にてヒグマの痕跡を利用した長期モニタリングを継続するとともに、自動撮影カメラを用いた直接的な手法でより正確な個体数推定・行動観察を行う。また、近年増加している人とヒグマとの軋轢の問題を減らすため、普及啓発活動を積極的に行う。一般の人がヒグマの生態を正しく理解し、現在起こっている問題について考えてもらえるように努める。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- ヒグマの個体数推定をより正確に行うため、自動撮影カメラを購入したいという申し込み。
- グループの歴史は古く、今年度も札幌市内のヒグマ出没をテーマにした300人規模のシンポジウムを実施し注目を集めた。

トムコース⑨旭山自然調査隊

1. **活動名称** わたしたちの守るもの
2. **主な活動地域** 札幌市
3. **活動内容**

水辺の環境や在来の樹林を保全することで、希少種や生き物の多様性を守る活動をしています。多くの生き物の繁殖地を将来的に守ることで、身近に残る自然や命の尊さを知り、地域の魅力を発見してもらいたいです。本団体の活動は今年で6年目になりますが、調査に留まらず自然観察会や近隣小学校への環境教育支援も行っていきたいです。参加者の年齢層が中学生から未就学児と幅広いので、異学年交流をはかります。調査活動や自然観察会では外部講師や学生ボランティアを起用しフィールドワークでの人材育成にも力を注ぎます。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 札幌市から活動表彰を受けている。旭山記念公園とその周辺都市環境林において、環境整備や自然観察会などを行う。
- 地域住民や学生ボランティアなども巻き込み、子ども向けの活動を展開している

トムコース⑩任意団体うみいく

1. **活動名称** 地域の先生と学ぶハマボウフウ講座
2. **主な活動地域** 石狩市
3. **活動内容**

石狩海岸は、道内1位の人気を誇る海水浴場があるだけでなく、自然豊かな海辺の環境が残る数少ない自然海岸でもある。中でも海浜植物のハマボウフウは、食用として地域の人々が親しみ、海辺の環境は生活と深く関わっていた。ハマボウフウを中心として、それにかかわる食文化の継承、持続可能な活用と保全の関係を考察し、石狩海岸特有の自然環境の学びを行う。

地域住民を講師として招いたハマボウフウの採取と調理体験の実施、石狩海浜植物保護センターによる海浜植物保護と持続的な利用に関する説明と見学会、自然観察会を通じた海辺の環境の学びを実施する。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- ハマボウフウの採取、調理、自然観察会などを通じて、石狩海岸の生物多様性と人々の生活とのつながりについて学ぶ。
- 生物多様性の恵みを実感するための活動。

トムコース⑪中標津の自然を知ろう会

1. **活動名称** 中標津町の格子状防風林を活用した環境教育活動
2. **主な活動地域** 中標津町
3. **活動内容**

北海道東部の中標津町内にある格子状防風林を中心に環境教育プログラムを実施し、格子状防風林の認知度向上を目指すと共に、生物多様性を学ぶ機会を作り、COP10で策定された愛知目標の基本戦略の一つである「生物多様性を社会に浸透させる」活動に取り組む。また活動の中で、格子状防風林の生物多様性を向上・維持するための取り組みとして、様々な生き物が利用できる環境づくりとしての巣箱の設置や、環境保護活動としてゴミ拾いを行う。こうした取り組みを子どもたちと行うことで、持続可能な開発目標（SDGs）の目標15である「森の豊かさを守る」活動を通じた、充実した学びの場を作る。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 北海道遺産である格子状防風林での生物多様性保全活動。
- 小学生を対象に、巣箱設置や防風林内でのゴミ拾い等環境教育プログラムを実施する。
- 生活や産業と密接する自然環境での生物多様性保全活動は非常に有意義である。

トムコース⑫特定非営利活動法人 てしかがトレイルクラブ

1. **活動名称** 特定外来・外来植物の駆除活動および啓蒙活動
2. **主な活動地域** 弟子屈町
3. **活動内容**

当法人の目的の一つである地域の自然を保全し後世へ継承するために、在来種や希少種を脅かし、故郷の景観を変えてしまう勢いで繁殖しているアメリカオニアザミ（外来種）およびオオハンゴンソウ・ハナガサギク（特定外来種）の駆除活動を実施する。

また、これらの植物についての地域住民の意識と知識を向上させ、協力者を増やすことで活動の長期継続を目指す。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 「摩周・屈斜路湖トレイル」ルートにおいて、アメリカオニアザミやオオハンゴンソウ・ハナガサギクなどの外来植物の駆除活動を行う。
- 特集記事による広報やボランティア募集などにより啓蒙活動も行う。
- 協力者を増やすことを目的としており、これにより長期継続を目指す点などを評価。

トムコース⑬東川町大雪山国立公園保護協会

1. **活動名称** 東川町大雪山国立公園内における生物多様性保全活動
2. **主な活動地域** 大雪山国立公園のうち旭岳地区等東川町域
3. **活動内容**

東川町大雪山国立公園の自然環境保全、山岳遭難防止及び本町の特色を生かした利活用の推進を図るべく、特に新型コロナウイルス感染症防止対策に十分配慮することを前提とした次の活動を行います。

- ①自然保護対策事業（地元NPO法人への委託事業）
- ②大雪山愛護少年団事業
- ③携帯トイレの斡旋
- ④各種安全利用・自然観察会・エコツアー事業

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 大雪山の自然環境保全を進めるため、さまざまな事業を展開している団体。
- 公園利用の促進や東川中学校の生徒を対象とした事業も多く、この地域の保全につながっていると理解できる。

トムコース⑭大雪山マルハナバチ市民ネットワーク

1. **活動名称** 力を合わせて大雪山のお花畑を守りましょう
2. **主な活動地域** 旭川市周辺・大雪山系中央部
3. **活動内容**

特定外来生物セイウオオマルハナバチはヨーロッパ原産のマルハナバチである。舌が短く、顎の力が強いいため、花筒の長い花の場合、正面から吸蜜できずに外から穴を開ける盗蜜行動によりしばしば花の授粉を妨げている。また花資源や営巣場所をめぐって在来種と競合、交雑・不妊化により在来マルハナバチの生息が脅かされている。さらに高い繁殖力を持っているため、平野部や農地に入るとあっという間に増えてしまう。ハウス施設野菜（主にトマト）の交配用に輸入が開始されたのが1991年、その5年後には北海道日高地方平取町の野外で自然巣が発見され野生化を確認、以降急激に全道に分布を拡げている。大雪山系への侵入を防ぐべく市街地での捕獲で密度を下げ、蜜源となる植物の刈取を通して棲息に負荷を掛けたい。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 貴重な自然が残る大雪山系・十勝岳山系において、特定外来生物セイウオオマルハナバチの進入状況をモニタリングする。
- 市街地では、同種の根絶は難しい状況にあり、大雪山系のような貴重な環境が残る場所への進入を阻止することは非常に重要である。

トムコース⑮フォレストクリエイティブタック（TACK）

1. **活動名称** 冬の散策路整備/ウィンターコースづくり
2. **主な活動地域** 当麻町
3. **活動内容**

当団体は社会福祉法人当麻かたるべの森と連携して障がいを持った方の日中活動や余暇支援などを行っている。夏季の森は森林整備や散策、野鳥観察、ツリークライミングなどで積極的に入っている。冬季の森は過去にスノーシューや歩くスキーで深雪に入ることを行ったが、気軽に歩き、誰でも散策できる環境とは言えない。そこで昨年からの試験的にウォーキングなど気軽に入れるように重機などで踏み固めている。さらに歩くスキー用のカッターを引くことで歩くスキーと散策し易いフィールドづくりを行っている。長年継続して行えるように環境を整えていきたい。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 障がい者とともに、森林整備や野鳥観察ができる自然散策路の整備を行う内容であり、社会的意義がある。

トムコース⑯宮舞町湿原を大切に思う会

1. **活動名称** 宮舞町湿原（別海町）の保全重要性の周知活動
2. **主な活動地域** 別海町
3. **活動内容**

希少種ムセンズゲが自生し、市街地に隣接しているという高い価値を持つ宮舞町湿原は、その一部が埋め立てられる計画があったものの、本会の活動により当面その危機は回避された。しかし依然として埋め立てられる可能性は残っていることから、宮舞町湿原の恒久的保護に向けて、記録会・学習会・写真展の開催やパンフレットの配布を通じて別海町民をはじめとする広範な市民に周知し、保全の機運を高めていく。

4. 選定協議会での採択理由・意見など

- 昨年、民間企業による埋め立て計画が持ち上がり、町民らが保存活動に乗り出した案件である。
- 希少価値が高く、一般市民に保全の理解を広める必要がある。